



学びの庭

学 校 教 育 目 標

自ら学ぶ生徒 人を尊ぶ生徒 自ら鍛える生徒

「障がい者差別をなくすために」

(略) 11月15日から日本で初開催となるデフリンピック東京大会が行われています。デフリンピックは聴覚障がい者による国際スポーツ大会です。パラリンピックよりも歴史が長く、第1回のパリ大会から101年目となり、伝統のある大会です。現在まで日本人選手の活躍が、毎日報道されています。

さて、皆さんは、ヘレン・ケラーという人を知っていますか？(略) 今年の人権講話のテーマは、「障がい者差別をなくすために」です。世界的に有名な女性、ヘレン・ケラーとその関係者の生き方を通して、テーマについて、どのように捉え、どう行動すべきかを考えながら参加してください。

ヘレン・ケラーは、1880年にアメリカで生まれました。1歳7ヶ月の時に高熱により、視覚と聴覚を失い、「盲ろう」という重い障がいを負いました。ところが、目も見えない、耳も聞こえない幼いヘレンは、自分なりに身振りや手話のようなものをつくり、コミュニケーションを取りながら、ものすごく活発で、何事にも積極的に活動していたようです。一方、活発なヘレンは、自分の思いがうまく伝わらなかったりすると暴れることがよくありました。そんなヘレンを見て、両親はできるだけ早い時期に、教育を与えなければいけないと痛感します。これが、家庭教師サリバン先生がやってくるきっかけとなるのです。サリバン先生の独自の指導と献身的な努力により、ヘレンは「水(water)」という言葉の意味を理解したことを機に、猛烈な勢いで言葉を学ぶようになり、めざましい成長を遂げていくようになります。後にヘレンは、世界中で講演を行い、社会福祉活動に貢献し、世界の人々に希望を与える立場になるのです。

ここでサリバン先生について、紹介します。ヘレンの両親が相談した相手は、電話を発明したベル博士でした。奥さんが難聴者であったベル博士は、親身になって相談にのり、ある盲学校の校長先生を紹介してくれました。その校長先生に派遣してもらったのが、20歳のサリバン先生でした。貧しい家庭で育ったサリバン先生は、5歳の時に病気で視力をほとんど失いました。10歳頃に独りぼっちになってしまうなど、過酷な生い立ちの中でも14歳で盲学校に入学しました。手術を受けていくらかの視力は取り戻すことができました。そして、サリバン先生は、一生懸命に勉強し、20歳の時に最優秀の成績で盲学校を卒業することができました。このように苦難を乗り越えたサリバン先生だったからこそ、ヘレンの苦しみを理解し、根気よく向き合えたのだと思います。サリバン先生は、後に、ヘレンの「目」と「耳」となり、ヘレンと生涯にわたって行動を共にしました。指文字による通訳など、ヘレンの言葉を補足する役割を果たすことにより、ヘレンが世界中の人々との交流を通じた社会活動続けることを可能にしたのです。

ヘレン・ケラーの心の支え、人生の目標になった日本人がいることを知っていますか？それは、江戸時代後期の盲目の国学者である塙保己一(はなわほきいち)です。塙保己一は、埼玉県本庄市(旧児玉町)の農家の長男として生まれました。幼い頃から体が弱く、7歳で失明しました。保己一は、皆さんぐらいの年齢の時に家族の不幸があったのにもかかわらず、学問を学ぶ機会を求めて、江戸へ向かいしました。多くの苦勞と大きな挫折を味わいましたが、後に学問を学ぶ場へ導いてくれる人との出会いに恵まれ、点字もない時代に、努力を重ねて、一流の学者になりました。彼は、日本古来の貴重な古典を全国から集め、「群書類従」という約670冊にも及ぶ一大文献集を完成させました。これは、日本の歴史や文学を後世に伝える上で、計り知れない偉業です。ヘレンは幼い頃、母親から「日本には、盲目でありながら努力して大成した塙保己一という人がいる。」と、繰り返し聞かされて育ちました。ヘレンが、1937年に初めて来日した際、浦和市(現在のさいたま市)で講演し、「私は、苦しい時、悲しい時、挫折しそうな時、塙保己一先生のことを思い出し、弱気になっている自分を奮い立たせることができました。塙先生は、私の心の支えです。」と話をしたそうです。

ヘレン・ケラーやサリバン先生、塙保己一の人生は、障がいのある人でも健常者と同じように、適切な支援と本人の努力によって、偉業を成し遂げることができることを示しています。しかし、今もなお、私たちの社会には、障がいのある人に対する差別や偏見が残っています。障がい者差別とは、障がいを理由に不当な扱いをすること、または障がいのある人が社会生活を送る上で必要な「合理的配慮」をしないことです。「合理的配慮」とは、例えば、段差にスロープを設置するなど、個々の状況に応じて、必要な変更や調整を行うことです。

大切なのは、障がいを個性として受け止め、相手を理解しようとする「心のバリアフリー」を築くことです。次の3つを意識してください。1 知ろうとすること：障がいについて正しく知り理解しようとする 2 想像すること：相手の立場に立って考え何が必要かを想像すること 3 行動すること：困っている人がいたら声をかけ手助けすること

では、本日の話を聞いて、学んだことや障がいのある人になぜ差別をするのか、障がい者差別をなくすために、自分ができることは何かなどを、ワークシートに自分の言葉で記入してください。

ヘレン・ケラーと塙保己一が示す、困難に立ち向かう挑戦と冒険心、そしてサリバン先生の献身的な愛は、私たちがお互いを尊重し、支え合って生きる社会の実現に向けた大きなヒントを与えてくれます。これから皆さんが、差別や偏見のない社会の担い手になってくれることを期待しています。(略) (人権週間による校長講話より一部省略)

寄居中学校 学力向上に向けて

埼玉県学力・学習状況調査の分析と対策

1、埼玉県学力・学習状況調査 結果

【正答率】埼玉県を 100 としたときの本校の相対値

	中 1		中 2			中 3		
	国語	数学	国語	数学	英語	国語	数学	英語
埼玉県	100	100	100	100	100	100	100	100
寄居町	93.3	105.2	88.8	88.7	92.0	87.2	83.8	82.7
本校	95.4	107.1	86.8	86.8	92.5	92.3	88.5	87.2

【学力の伸び】埼玉県を 100 としたときの本校の相対値

	中 1		中 2		中 3		
	国語	数学	国語	数学	国語	数学	英語
埼玉県	100	100	100	100	100	100	100
寄居町	93.6	102.4	99.7	84.0	102.3	100.3	100.1
本校	96.9	115.8	107.1	94.8	103.5	98.6	91.7

2、分析と対策

◇自校の強み◇ (抜粋)

- 【1年】《数学》全領域とも県平均以上であり、バランス良く資質・能力が備わっている。(伸びも顕著である。)
- 【2年】《国語》学力を伸ばした生徒が県を大きく上回り、昨年度からのPDCA サイクルが功を奏している。
- 【3年】《英語》領域「聞くこと」について、県と同等のレベルにあり、授業内での学び合い等の取組が効果的である。

◆自校の課題◆ (抜粋)

- 【1年】《国語》領域「読むこと」について、登場人物の発言からの心情把握に課題がある。
- 【2年】《英語》領域「読むこと」について、「日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる」に課題がある。
- 【3年】《数学》領域「データの活用」について、「同様に確からしいことを基にして、確率の求め方を考えることができる」に課題がある。

◎自校の課題を克服するための今後の具体的な方策◎ (抜粋)

- ・授業展開において「寄居中スタンダード」を徹底し、「学び合い」を含めた授業実践を蓄積、研究する。また、教科内外の横断的な連携や特別活動・学級経営などとの有機的な結びつきを強め、非認知能力や学習方略の向上を図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査を定期的に行い、授業改善を図る。また、コバトン問題集やMEXCBTにアップされた復習シート等を用いて、学習内容の定着具合を見取っていく。
- ・「反転学習」を継続的にを行い、家庭の協力を得ながら、家庭学習の充実を図る。また、NIE 活動を継続的にを行い、社会性を身につけるとともに、教科全般の「文意を読み取る」力の向上を図る。
- ・「自学室」の活用や放課後補習を行い、学校教育目標「自ら学ぶ生徒」の育成に寄与する。

【自ら学ぶ生徒】になるために

- (1) 目標
- ①県学調「学力の伸び(平均)」を県以上に
 - ②全学調正答率、全教科全国平均正答率以上に
 - ③校内実力テストの標準点を 50 以上に
 - ④中 3 英語検定 3 級以上取得を 50%以上に
- (2) 目標を達成するための対策(右記)

- a 「学び合い」の推進
- b 自学室の活用・反転学習の推進
- c より・E・土曜塾への参加
- d タブレット活用・家庭学習の充実
- e 学力向上キャンペーンの実施
- f 家庭学習強化期間の設定
- g 町教委主催事業への参加(英語検定等)
- h 「NIE」の実施
- i 朝読書の充実・電子図書の活用
- j 寄居中探究ハイクの実施(寄居ふるさと探究学)

12月行事予定

日	曜日	行 事 (12月)	
1	月	1・2年期末テスト【部活中止】	
2	火	1・2年期末テスト【部活中止】	
3	水	1・2年期末テスト【部活中止】	
4	木	資源回収事前指導 PTA 交通安全指導	
5	金		
6	土	資源回収（予備日なし）より・E土曜塾	
7	日		
8	月	職員会議（12月）	
9	火	表彰朝会	
10	水	一斉総合校内発表会	
11	木	生徒会の日 寄居町合同学習会	
12	金	新入生説明会	
13	土	より・E土曜塾	
14	日		
15	月	町道德講演会 校内研修	
16	火	たまよど号（移動図書館）来校	
17	水	寄居町 70 周年記念給食	
18	木		
19	金	安全点検日 期末短縮 給食終了	
20	土	より・E土曜塾	
21	日		
22	月	期末短縮 大掃除	
23	火	期末短縮 一斉総合「町長への提言」	
24	水	2学期終業式	
25	木	冬 季 休 業 日	
26	金		
27	土		
28	日		
29	月		学校閉庁日
30	火		学校閉庁日
31	水		学校閉庁日
1 月			
1	木		元日・学校閉庁日
2	金		学校閉庁日
3	土	学校閉庁日	
4	日		
5	月		
6	火		
7	水		
8	木	3学期始業式 職員会議	
9	金	全学年実力テスト 避難訓練 給食開始	

